

知らせいただきたい。

川崎市がん検診センター所長、〒211川崎市中原区小杉町  
三一二六二電話 ○四四一七三三一一五六

(大村 敏郎)

### 湯島聖堂保存修理工事竣工

### 湯島聖堂創建三百年事業完成記念会

第二次世界大戦中、大成殿をはじめ諸施設が焼夷弾により破損され、昭和初期の復原工事以後補修もされなかつたので、昭和六十一年以来、斯文会を中心として保存修理工事が行われた。ようやく七年余の歳月をかけ、故伊東忠太東大教授が設計、建設された昔日の姿にもどることができた。

平成五年三月二十九日、大成殿において約百五十名余の関係者が集り、保存修理の完工と湯島聖堂創建三百年事業の式典を行った。

当日は風が強かつたが晴天に恵まれ、鳩山邦夫前文部大臣をはじめ、徳川家からも代表が出席された。本会からは蒲原宏理事長が祝意を表したが、本学会名誉会員でもあり東洋医学会の重鎮である矢数道明氏も参じられた。参加者には記念メダルが贈られた。式典後、斯文会館において伝統的な江戸木遣り、詩吟が披露された。神農廟のある森はこれを祝うごとく美しい木の芽が萌えていた。

(蒲原 宏)

### 「処士独嘯庵墓」再建について

江戸時代の中期の古医方の大家、永富独嘯庵は名著『漫遊雑記』により、病理解剖の必要性を説き、華岡青洲に乳癌手術のヒントを与える等、近代医学の種子を蒔いた天才的な医傑である。

大阪市天王寺区上之宮町四番地の曹洞宗蔵鷲庵にある「処士独嘯庵墓」は、昭和四十年の二百年忌追遠祭以降、墓碑の風化剝落が更に甚しくなり、現状を留めえぬ状態に至つた。

「処士独嘯庵墓」の再建事業の経過報告——

①蔵鷲庵に於て第一回会合 平成四年九月十五日

参会者、寺師睦宗、長門谷洋治、岡村芳樹、中嶋哲夫(独嘯庵九代目子孫)、蔵鷲庵住職磯田芳竜、棟近美代師(石浅石材店主)

お墓の現状について協議、二百年祭の主催者である寺師先生の発議により、明春三月彼岸までに再建する事を決定す。

②独嘯庵顕彰会の再発足

独嘯庵顕彰会

発起人 日本先哲医家の墓を守る会々長 寺師睦宗

日本医史学会理事長 蒲原 宏

東亜医学協会々長 矢数道明

事務局 大阪市天王寺区上本町六―三―三二―四〇五

岡村クリニック